

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 043	提案機関名 農業技術センター三浦半島地区事務所
要望問題名 ブロッコリーの地域適応品種の選定および作期の拡大に向けた栽培技術の確立	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 三浦半島でのブロッコリー栽培面積は9ha（平成18～19年 神奈川農林水産統計年報 横須賀市、三浦市、逗子市、葉山町の合計）であり、ダイコン、キャベツと比較するとまだまだ少ないが冬作の有望な品目の一つであり、市場出荷や契約栽培等も行われている。契約栽培農家では温暖な気候を活かしたアントシアンフリー品種の作付けが望まれており、地域に合った品種の選定および作期の拡大に向けた栽培技術の確立についてお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター三浦半島地区事務所	担当部所	研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可分		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 横須賀・三浦の一部地域では、すでに、ブロッコリーの導入が進められ、作型の12月～1月どり、1月どり、1月～3月どり、3月～4月どりにあわせて、それぞれの品種が栽培されている。現地では、農協を通して種苗メーカーからの試行番号品種の試験栽培が実施されている。種苗メーカーからは、中晩生種でアントシアンフリーまたはアントシアンの着色の少ない品種が紹介されている。アントシアンフリー以外の要因、奇形花蕾や形状の乱れがおこりにくい品種や、市場出荷の場合は、側枝花蕾の発生しにくい品種の現地導入が進められて、地域に適合する品種選定が行われているところである。すでに導入されている1月どり栽培品種でべと病と思われる症状が問題となっているとのことであるが、現場での診断と発生状況の確認が必要である。このような現状から、ブロッコリー生産を主力とした農家での、花蕾障害を中心とした調査指導対応で普及指導課の御協力をお願いしたい。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			